

## 小中学校適正規模適正配置審議会において出された主な意見

## 1 出された意見

- (1) 小中学校適正規模適正配置実施計画（案）たたき台の論点についての検討（第1回目）  
（論点の全体的な確認）

	出された意見
1	・（論点1）行政区、公民館の活動対象区域を基本とするところで、小中学校の適正規模適正配置が行われることにより、こども園、公民館の配置にも連動してくるのか
2	・（論点4）スクールバスの現状の問題点、課題について
3	・（論点4）スクールバスの運行について、距離や時間の観点の他に、行政区によっては子どもが減少しており、1人2人で通学させることは不安がある。これら点からも検討が必要ではないか。

- (2) 小中学校適正規模適正配置実施計画（案）たたき台の論点についての検討（第2回目）  
（論点1について）

・学区の考え方（地域との関わり）【行政区と学区の関係性】

	出された意見
1	・仮に統合となった場合に、何十年とやってきている伝統行事や地域行事の活動範囲を広げ、違う地域の方々と活動するイメージを持った。現実の活動、地域活動に関して、急な変更は難しいと思うので、現状維持を保ちつつ、場合によっては、徐々に広げていくのが理想ではと感じている。
2	・但し書きに、「適正規模を確保するため、旧市町村を超えて・・・」という内容が加えられたが、最終的には必要と思うが、規模を優先する感じの言い方になっているので、文言の検討をお願いしたい。
3	・行政区のまとまりという観点から、学区が2つあることは好ましくないが、子ども達の立場から考えれば、現在の学区を変更することで、子どもたちのつながりや人間関係に影響が出る。両方の考えがあり戸惑っている。
4	・地区に2つの学区があることで、保護者同士の連携がうまくとられていない現状がある。 ・公民館の行事に、学校によっては児童の参加が少ない傾向がある。
5	・学区と行政区や公民館の範囲は同一にできないと考える。学区だけ別に考えた方が、統合しやすいと考える。
6	・これから子どもの数の減少を考えると、旧市町村を超えてという話になってきて、今回示された議論のための視点の表現が必要と考える。 しかし、できるだけ現状維持するためにはどうしたら良いのかという議論についても、地区代表としては話をさせていただく。
7	・行政区や公民館の活動対象区域を基本とし、「区域が分断されないことへ配慮する・・・」について、区域が分断されないという表現の仕方に違和感を持っている。

（論点2について）

・学区の考え方（地域との関わり）【分散進学のは是非】

	出された意見
1	・基本的には、同じ小学校から同じ中学校に進学することが、子どもの発達段階からすると良いのではないかと思う。
2	・分散進学の対象となる中学校は第二中学校と第三中学校だけか確認したい。

(3) 小中学校適正規模適正配置実施計画（案）たたき台の論点についての検討（第3回目）

（論点3について）

・児童生徒の日々の生活【通学時間・距離】

	出された意見
1	市の統一的な基準は必要だと思うが、通学上の安全確保が重要であって、学校に応じて柔軟に考えていくべきではないか。
2	山間部、冬期間、降雪量の多い地区など様々な条件があるので、スクールバスの対象は、幅を持たせた方が良くはないか。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・距離の基準は必要と思うが、その妥当性については判断がつかない。スクールバスの利用を考慮しながら、検討が必要ではないかと思う。</li> <li>・第1に考えるべきは、子どもの安全であることから、学校の状況によって弾力的に運用していく必要があるのではないか。</li> </ul>

（論点4について）

・適切な通学手段の確保

	出された意見
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳地帯で広範囲に子どもがいることから、スクールバスの運行については、不審者対策、熊などの出没への対応など、こどもたちの安全対策上、大変助かっている。</li> <li>・冬期間、除雪が間に合わないために、近距離からスクールバスを利用している現状がある。</li> </ul>
2	・スクールバスの運行については、安全面の確保から大変助かっているが、子どもの肥満の問題もあるので、健康維持の面からも考える必要があると考えている。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学年ごとの放課後活動に応じたスクールバスの運行時間を検討いただきたい。</li> <li>・子ども一人一人が自宅まで安全に帰宅できる方策についても、併せて議論が必要ではないか。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスを利用できる制度として、以下の場合を検討していただきたい。 冬期間の基準の緩和 熊の出没の際、保護者の送迎となっている点 低学年の児童への距離基準の緩和 支援を要する児童生徒が積極的に利用できるような基準の設定。</li> </ul>

（論点5について）

・望ましい学校規模【望ましい学級数・学級の人数】

	出された意見
1	・市の実情を考慮した学級数、人数に近いものに考えていくことが必要ではないか。
2	・学習効果を高めるための学校スタイル等の手法について、詳しく検討をしていただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましいとは何なのか。学級数を増やすことだけではないのではないか。</li> <li>・子ども達をどのように教育していくのが良いのかという観点から、学級数、人数については弾力的に考えていくべきではないか。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準を設けていかなければならないという観点からは、17人以上となるのであろうが、現状をみると、当てはまらない状況が多い。 将来、子どもをどのように育てていくのかという観点と併せて考えていくことが重要と感じている。</li> </ul>
5	・学校規模について、数字を明記してしまうことがどうなのかと考えている。数字を明記するのであれば、その数字は、理想とするものなのか、現状を勘案してのものなのか、よく検討すべきではないか
6	・「望ましい」という言葉に違和感がある。